

庭を囲む家

レオパレス21平屋設計コンテスト応募作品



どこにいても
誰かの顔が見える家。

コンセプト

高齢化社会が進む日本では孤独死などが特に大きな問題となっている。物騒な事件も多く近所づきあいも希薄になっているためである。中でも家族もしくは夫婦間ですらあまり言葉交わすことが少ないとも聞く。ひとつ屋根の下で暮らしているのに、互い自室にこもって暮らすのはあまりにも寂しい。

この『庭を囲む家』は1本ケヤキの木がまっすぐ育つ中庭を挟んで家のどこにいても互いの顔が見えふれあうことができる家。中庭を通して四季折々の時間を感じながら家族と過ごす、心のバリアフリーが自然と生まれる場所だ。

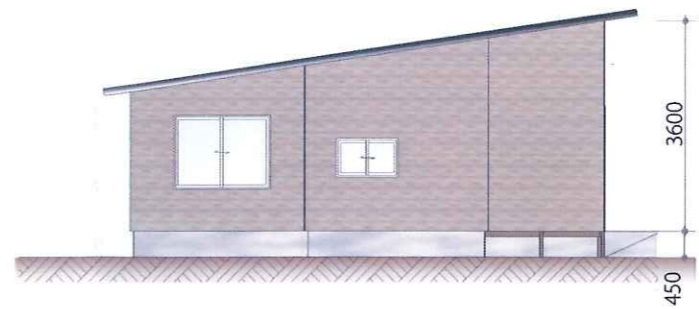
※住宅外観図、正面からのアクセスを見る。



※住宅内観図、リビングから家全体が見渡せる様子がわかる。



※中庭をみる。ウッドデッキを渡れることで住宅全体の動線は回遊性を持っている。



西面立面図
Scale: 1/100



平面図
Scale: 1/100

車いすでも移動可能なスロープ

外から玄関を通り、室内へ入っていき
リビングに向かうまでの間ほとんど段差はない。

夏の日には夕涼みのできるテラス

リビングから直接出ることのできるテラス。
ご近所さんがここから直接声をかけてくれる、
そんな近隣とのコミュニケーションの窓口と
なってくれればいいと考えている。

広い玄関ホール

車いす使用時に考慮し広めに
玄関ホールを用意してある。

ハレの日にはリビングに。

普段は廊下として使われるようなスペース
だが孫が来たりハレの日にはリビングとして
拡張できるように間仕切りはない。
普段の生活はコンパクトに、それでも
機能性は捨てない。

行きたいところにすぐ行ける。

平屋を立てるとどうしても住宅全体が大きくなってしまい
動線も長くなる。そのせいで日々の生活の中で必要以上に
歩かされてしまうのは本末転倒。ウッドデッキを通して
寝室側からもリビングにすぐに渡れる工夫がしてある。